

The image shows the front cover of a book. On the left side, there is a vertical column of large, bold Japanese characters: '朝' (Asa), '日' (Hi), '新' (Shin), '聞' (Kiku), and '聞' (Kiku). The characters are set against a background of a repeating pattern of stylized cherry blossoms and leaves. To the right of this title block is a black and white portrait of a man, Ichiro Sakurai, looking directly at the camera. He has short hair and is wearing a dark suit jacket over a light-colored shirt. To the right of the portrait is a large, stylized character '風' (Kaze), which is part of the book's title. Below the portrait and the character '風' is the author's name, '坂尻 信義' (Sakurai Shin'ichi), written in a standard font. In the bottom right corner of the cover, there is a small logo consisting of a stylized 'N' shape followed by the text '日本語' (Nihongo), indicating the language of publication.

坂尻 信義

北京から

日本語を学ぶ

この冬2度目となる雪化粧が北京にほどこされた14日、全国各地で日本語を学ぶ学生が日本大使公邸と棟続きの本部に集まつた。「中國人の日本語作文コンクール」の表彰式に出席するためだ。

日本関係の書籍を出版する日本雑誌社（東京・池袋）の主催で、今年で8回目。同社編集長の段躍中さん（54）は1991年、日本に留学した妻を追つて、共産主義青年団の機関紙・中國青年報を辞めて来日した。アルバイトのない日々は鳴鶴の4畳半アパートと豊島区立図書館を往復する生活で、50首から日本語を学んだ。B5サイズ18ジのタブロイド判情報誌から始め、これまでに出版した書籍は約24冊にのぼる。

今年のコンクールには、中国の大学、専門学校、高校、

この冬の度合となる雪化粧
が北京にほどこされた14日、
中国各地で日本語を学ぶ学生
が日本大使公邸と棟続きのホ
ールに集まつた。「中国人の
日本語作文コンクール」の表
彰式に出席するためだ。

若者の草の根交流が氷を碎く

中学の計157校から264編が寄せられた。応募資格は「日本留学の経験がない学生」。優秀賞数編の中から日本大使が選ぶ最優秀賞の受賞者には、副賞として1週間の日本行きが贈られる。

会場で、昨年の最優秀賞を受けた胡万程さん(21)が、かしがいしく準備を手伝っていた。北京の国際関係学院4年。東日本大震災後、インターネットの掲示板に「ざまみろ」と書き込んだ高校時代の同級生との対立と和解を描いた作文「王君の『頑張れ日本』」で受賞し、今年2月に日本を初めて訪れた。

日本に行つたら「すべてを見たい」と昨年の表彰式で話した胡さんは、卒業後の日本留学を目指している。

今年の最優秀賞に選ばれたのは、中国内陸部にある湖北大外国语学院日本語学科4年の李欣晨さん(21)。受賞作「幸せな現在」は、祖父の戦争体験を踏まえ、日中両国の人々が「過去の影」に縛られてはいけないと書いた。

やはり日本への留学志望の李さんは、国有企業に勤める父親から、最近の日中関係の悪化を受けて難色を示されていました。でも、今回の受賞で「私が自分の目で見た日本が『想像した通りに人々が優しく、景色がきれいだったたら、留学を支持する』と父親は言ってくれました」と、うれし

そうだった。「やさしい響きが好き」という日本語の教師になることが、将来の夢だ。今年あつた、もうひとつ的是「日本語・提言コンテスト」の表彰式も、印象深かった。1等賞に選ばれた河南省の安陽師範学院3年、韓福艶さん(22)は「苦しい選択」日本語科と題し、中国の農村部でこそ日中交流が必要と訴えた。子供のころ、テレビで見る戦争映画の日本兵は、鬼のような人物ばかりだった。

日本のアニメに魅せられて日本語を専攻したという韓さんは、「私の選択が間違っていたことを両親に証明したい」と語った。

こちらの表彰式は、満州事変の発端となつた柳条湖事件から81年の9月18日だつた。中国では「国恥の日」と呼ばれるこの日、日本政府による尖閣諸島国有化に反発したデモが中国国内約100都市で燃え上がつていた最中で、会場探しに苦労したといふ。

こうした草の根交流が、運営資金の工面に苦しみながら、細々と続けられている。

大使不在の公邸の日本庭園は、雪のあとに降つた雨が凍りつき、先週の雪でまた白くなりつた。6年前、当時の安倍晋三首相が日中関係を修復するため決断した訪中が、中国で「破氷の訪問」と呼ばれ、いたことを、ふと思い出した。